

出穂はやや早まりそう 適期適量の穂肥とこまめな水管理の徹底を！

👉 7月9日・20日現在の生育状況

7月20日の生育調査から、草丈長く、茎数やや少ない～少ない、葉色はやや濃くなっています。幼穂の発育は、例年よりやや進んでおり、出穂がやや早まる見込みです。

表1 生育診断ほの調査結果（酒田市荻島 はえぬき、ひとめぼれ）

品 種 名	年 次	草 丈(cm)		茎 数(本/㎡)		葉 数(枚)		葉色 (SPAD 値)	
		7/9	7/20	7/9	7/20	7/9	7/20	7/9	7/20
は え ぬ き	本 年	65.0	72.3	621	570	10.0	11.4	41.9	38.7
	前 年	56.2	62.4	685	628	9.9	11.1	37.9	37.5
	平 年	57.3	65.6	626	581	9.9	11.0	39.8	38.0
	平年比	114	110	99	98	+0.1	+0.4	+2.1	+0.7
ひ と め ぼ れ	本 年	66.1	75.1	477	461	10.3	11.6	39.3	36.7
	前 年	54.3	63.7	560	518	9.8	11.0	34.1	35.9
	平 年	57.8	68.3	645	586	10.0	11.1	38.5	37.4
	平年比	114	110	74	79	+0.3	+0.5	+0.8	-0.7

幼穂調査（7月20日）によると、今年の出穂は**2日程度早くなると予測されます。**

👉 穂肥の施用は稲を良く見て慎重に

表2 晩生品種の穂肥の目安

品 種	予想出穂期	葉 色			施肥窒素量(Nkg/10a)	
		確認時期	葉緑素計	葉色板	出穂20日前	出穂15日前
コシヒカリ	8/13~15	7/20頃	33~35	4.3~4.5		1.5
つくばSD1号	8/13~15	7/20頃	33~37	4.3~4.7	1.0~1.5	

・今後、穂肥をする品種の穂肥の目安は表2の通りです。必要以上の穂肥は、過剰籾数につながり、倒伏、登熟の低下、品質・食味の低下をまねきます。ほ場の稲をしっかりとみて、施用しましょう。

👋 倒れやすい品種の倒伏診断

全般的には草丈長く、葉色もやや濃い状況です。中干しが不十分で葉色の低下も遅れ、下位節間が伸びているほ場・品種も散見されます。稈長の伸びやすい品種では、しっかり倒伏診断をしましょう。

① ひとめぼれ

1日1cm伸びるものとして、出穂前日数と今の草丈をたすと、稈長の目安になります。

稈長82cm以上で倒伏程度3以上になる危険が高まります。

倒伏が心配される場合は、倒伏軽減剤の使用も検討しましょう。

② コシヒカリ

出穂前13～14日 草丈83cm以上で倒伏3以上になる危険が高まります。

7月20日頃の生育			穂肥対応
草丈	葉色(SPAD)	草丈×葉色	
71cm以下	33	2300以下	基本どおりに穂肥
72～75cm	34～37	2400～2700	遅らせる。減肥する。
76cm以上	38	2800以上	倒伏軽減剤使用

👋 天候に合わせて水管理の徹底

- (1) 出穂までは、間断かん水を行い、根の活力を維持します。また、出穂前に作溝の手直しを行い、効率的な水管理を心がけましょう。
- (2) 穂ばらみ期から出穂期にかけては低温に最も弱い時期です。今後の天気予報に注意して低温になりそうであれば、深水管理などで稲体を保護する管理をしましょう。
- (3) 出穂期は、稲の体が最も水を必要とする時期です。出穂後7日間程度は2～5cmの水深を保ちましょう。また、出穂して間もない時期に高温・強風に遭遇すると、白穂および白粒の発生が懸念されますので、特に注意しましょう。

👋 カメムシ確認・葉いもち初発確認

(1) 葉いもち・穂いもち

- 管内で葉いもちの発生が見られ、今後、穂いもちの発生・拡大が心配されます。葉いもちの発生が見られるほ場では直ちに防除を行うとともに、穂いもち防除は、穂ばらみ後期と穂揃期の2回を基本とします。なお、葉いもちの多いほ場では、穂揃期防除の7日後にも追加防除を行いましょ。



(葉いもち)

(2) 斑点米カメムシ類

- 県病害虫防除所によると斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ等）の発生量は“平年並”となっています。すくい取りを行うと、ほとんどの地点でカメムシがいます。穂揃期および穂揃期7～10日後の2回の基本防除を必ず実施し、薬剤はカメムシ類の生息している畦畔にも十分かかるように散布しましょう。



(アカヒゲホソミドリカスミカメ)